

[畑作部門 令和2年度 指導参考資料]

| | | | |
|--------------|---|-----------|--------------|
| 事項名 | フルチアセットメチル乳剤（アタックショット乳剤）の大豆「おおすず」に対する薬害 | | |
| ねらい | 大豆の一年生広葉雑草防除剤として全面散布ができるフルチアセットメチル乳剤は、その薬害程度に品種間差があることが確認されている。本県の主要品種「おおすず」に対する薬害と収量に及ぼす影響が明らかとなったので参考に供する。 | | |
| 指導参考内容 | <p>1 薬害症状</p> <p>(1) 処理時展開葉は処理翌日から褐変や白化が現れ、その後、褐斑・褐変、白斑、縮葉症状を呈し、薬害程度が強い場合には一部枯死・落葉を生じる。</p> <p>(2) 処理後に展開した新葉に薬害は現れない。</p> <p>2 生育・収量に及ぼす影響</p> <p>(1) フルチアセットメチル乳剤単用では、成熟期の生育及び子実重は、処理時期にかかわらず無処理と同等である。</p> <p>(2) イネ科茎葉処理剤と混用することで1割程度の減収が認められるため混用しない。</p> | | |
| 期待される効果 | 大豆生育期の雑草害を軽減でき、大豆の安定生産が図られる。 | | |
| 利用上の注意事項 | <p>1 本資料は令和元年11月19日現在の農薬登録内容に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認して使用者の責任のもとに使用すること。</p> <p>「農薬情報」(http://www.maff.jp/j/nouyaku/n_info/)</p> <p>「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)</p> <p>また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更された農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用すること。</p> <p>3 雑草の草丈10cm以下で処理をすると効果が高い。</p> <p>4 以下の条件では薬害を助長する恐れがあるため使用を避ける。</p> <p>(1) 他の茎葉処理剤との混用</p> <p>(2) 大豆の生育が不良な場合</p> <p>(3) 重複散布</p> <p>(4) 展着剤の加用</p> <p>(5) 粒径の細かいノズルによる散布</p> <p>5 イネ科雑草には効果がないため、イネ科雑草が混在する場合は、イネ科茎葉処理剤との体系処理で使用する。</p> <p>6 殺草スペクトラムはベンタゾン液剤（大豆バサグラン液剤）と異なる。詳細については、農研機構HP「大豆用新規茎葉処理除草剤フルチアセットメチル乳剤の雑草種別効果と初期薬害」(https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/081344.html)を参照する。</p> <p>7 処理後6時間以内の降雨は効果を減ずることがある。</p> | | |
| 問い合わせ先（電話番号） | 農林総合研究所 作物部（0172-52-4396） | 対象地域及び経営体 | 県下全域の大豆作付経営体 |
| 発表文献等 | 平成27～28年度 農林総合研究所試験成績概要集 | | |

【根拠となった主要な試験結果】



写真1 処理翌日の大豆葉にみられる薬害症状
(平成27年 青森農林総研)

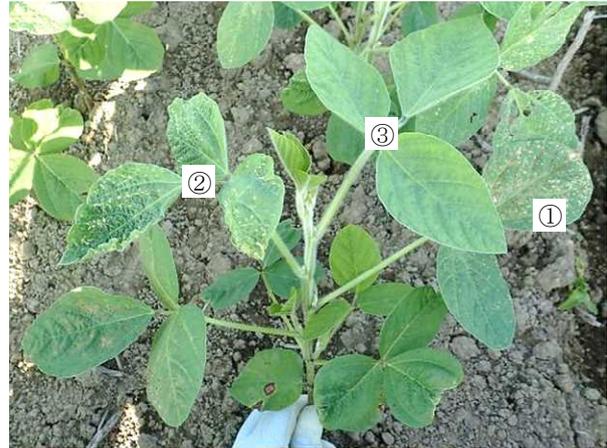


写真2 処理後に展開した大豆葉
(平成30年 青森農林総研)

(注)①：処理時完全展開、②：処理時展開中、
③：処理後展開

表1 成熟期の生育と処理後の薬害 (平成27～28年 青森農林総研)

| 単用・混用 (年次) | 処理時期 | 処理月日 | 主茎長 (cm) | 茎径 (mm) | 主茎節数 (節/個体) | 分枝数 (本/個体) | 処理時展開葉の 薬害症状 |
|---------------|---------|-------|-------------|------------|----------------|---------------|--|
| 単用 (平成28年) | 大豆本葉2葉期 | 7月12日 | 60 | 7.1 | 15.3 | 2.5 | <ul style="list-style-type: none"> ・褐斑、褐変 ・白斑 ・縮葉 ・一部枯死・落葉 |
| | 大豆本葉4葉期 | 7月20日 | 63 | 7.2 | 15.0 | 2.1 | |
| | 無処理 | — | 60 | 7.3 | 14.9 | 3.1 | |
| 混用 (平成27年) | 大豆本葉2葉期 | 7月20日 | 57 | 6.8 | 13.9 | 3.6 | |
| | 大豆本葉7葉期 | 8月4日 | 59 | 6.9 | 13.8 | 3.6 | |
| | 無処理 | — | 61 | 7.0 | 14.5 | 3.9 | |

- (注) 1 使用薬剤
 単用：フルチアセットメチル乳剤50ml/10aのみ
 混用：フルチアセットメチル乳剤50ml/10aとキザロホップエチル水和剤300ml/10aを混用
 2 薬剤希釈水量：100L/10a
 3 栽培様式 条間70cm、株間15cm、1株2本立て
 4 播種月日 平成27年：6月16日、平成28年：6月15日
 5 全区で処理前から成熟期まで雑草発生はほとんどなく、大豆生育に与える雑草の影響はない。
 ((注) 1～5は表2も同様)

表2 収量構成要素及び子実重 (平成27～28年 青森農林総研)

| 単用・混用 (年次) | 処理時期 | 稔実莢数 (莢/m ²) | 莢内粒数 (粒/莢) | 百粒重 (g) | 子実重 (kg/a) | 同左対比 (%) |
|---------------|---------|-----------------------------|---------------|------------|---------------|-------------|
| 単用 (平成28年) | 大豆本葉2葉期 | 630 | 1.88 | 39.5 | 43.2 | 98 |
| | 大豆本葉4葉期 | 588 | 1.87 | 39.9 | 46.0 | 105 |
| | 無処理 | 621 | 1.83 | 39.2 | 44.0 | (100) |
| 混用 (平成27年) | 大豆本葉2葉期 | 518 | 1.74 | 32.4 | 28.3 | 91 |
| | 大豆本葉7葉期 | 529 | 1.72 | 32.5 | 28.7 | 92 |
| | 無処理 | 552 | 1.73 | 34.4 | 31.0 | (100) |